

— 特 許 記 事 —

最近の製鉄鋼業界における発明

- | 公告番号 | 発明の名称 | (発明者) 出願人 |
|------------|---|---|
| | 特許出願公告 (昭和 31—11—30) | |
| 昭 31—10203 | 耐蝕性大なるアルミニウム含有鑄鉄の製造法
キューボラ鑄解による鑄鉄鑄湯に酸素瓦斯または空気等を注入し、鑄湯を強制的に沸騰させてその温度を上昇し、しかる後アルミニウムを添加する方法。 | (楠瀬四郎外2) 帝人製機 K.K. |
| 昭 31—10204 | シェル鑄型吹込装置
珪砂と熱硬化性合成樹脂との混合粉末を収容する原料タンクに送込む圧縮空気の送気管または送気管と原料タンクとの間に圧縮空気の送入の初期における瞬間だけ急速に減圧低下せしめる減圧室を設けたもの。 | (広瀬宗行) 同人 |
| 昭 31—10206 | 取鍋等のストッパーヘッド
ストッパー用ピン金具を耐火部材に埋設し一体に成形したもの。 | (奥川富彌) 八幡製鉄 K.K. |
| | 特許出願公告 (昭和 31—12—24) | |
| 昭 31—10755 | 鉄およびアムモニア合成用原料ガスの同時製造法
(略) | (高田直道外4) 日東化学工業K.K. |
| 昭 31—10756 | 加炭剤の噴射による鑄鉄の加炭方法
鑄鉄中に不活性ガスを媒体として粉末状の加炭剤を噴射する方法。 | (本田順太郎) 久保田鉄工 K.K. |
| 昭 31—10757 | 珪素合金ブリケット
金属珪素分 10% 以上を含有する珪素合金類あるいはそれらの混合物、または他の合金鉄との混合物を粉碎したものに硼砂あるいは硼酸または他の硼酸塩を混入し、結合剤として水硝子または苛性ソーダの水溶液を混和してこれを成形固化したもの。 | (横山二郎外1) 東北電気製鉄 K.K. |
| 昭 31—10759 | 硫化鉄鉱の処理方法
(略) | (エルンスト・クツス外4)
デュイスブルグ・クツファアーヒュツテ (独) |
| 昭 31—10765 | タングステンカーバイト粉末の硬化法による鋼材のハードフェーシング用コンパウンド
タングステンカーバイト粉末 75~96%、純度高き鉄微粉末 2~23%、硼砂および硼酸の混合物 2~5%を混和してなるもの。 | (武田久男) 石油鑿井機製作 K.K. |
| | 特許出願公告 (昭 31—12—28) | |
| 昭 31—10906 | 含クロム鉄鉱石から製鉄原料を得る処理方法
特許第 213998 号の含クロム鉄鉱石から製鉄原料を得る処理方法において可溶物を除去するに当りペレットに孔を穿ちクロム等の抽出率を良好ならしめる追加特許。 | (松塚清人) 八幡製鉄 K.K. |
| 昭 31—10907 | チタン鉄鉱より高チタン滓原料である海綿鉄を製造する方法
精選したチタン鉄鉱を原鉱のままの形状で還元された海綿鉄中の金属鉄がほぼ 10~35% となるよう予定された炭素量ならびに温度下において還元操作を行つて原鉱の形状で製出する方法。 | (佐々川清外1) 東北電化工業 K.K. |
| 昭 31—10908 | 鑄造状態にて含球状黒鉛鑄鉄の製造法
アルカリおよびアルカリ土類金属の酸化物、炭酸塩、弗化物のそれぞれ単独または混合物に炭素、珪素およびアルシニウムのいずれか1種または1種以上を含む鑄滓を以て鑄解炉中において炭素含有量 1.7~1.2%、珪素含有量 3.5~1.0% の鑄鉄を鑄湯、鑄滓接触面で鑄滓各成分が均一の状態に精錬し鑄造状態で球状黒鉛とパーライト地またはパーライト、フェライトより成り高抗張力、延性のある球状黒鉛鑄鉄の製造法。 | (岩瀬慶三外1) 金属材料研究所長 |
| 昭 31—10912 | 金属鑄塊鑄造法
鑄型内にその外側層および中心層を除いて注入せらるべき溶湯の鑄型内の冷凝速度にほぼ反比例的に太きまたは厚き等の量を定めた冷凝材を介装して金属鑄湯を注入共融し冷凝する方法。 | (大谷孝吉) 同人 |
| | 特許出願公告 (昭 32—1—12) | |
| 昭 32—2 | 硫酸焼鉱の脱銅法
湿式脱銅抽出法の原料である硫酸焼鉱に硫酸第1鉄を添加して焙焼し、焙焼後自体公知の方法で脱銅し製鉄原料とする方法。 | (田中志郎) 同人 |